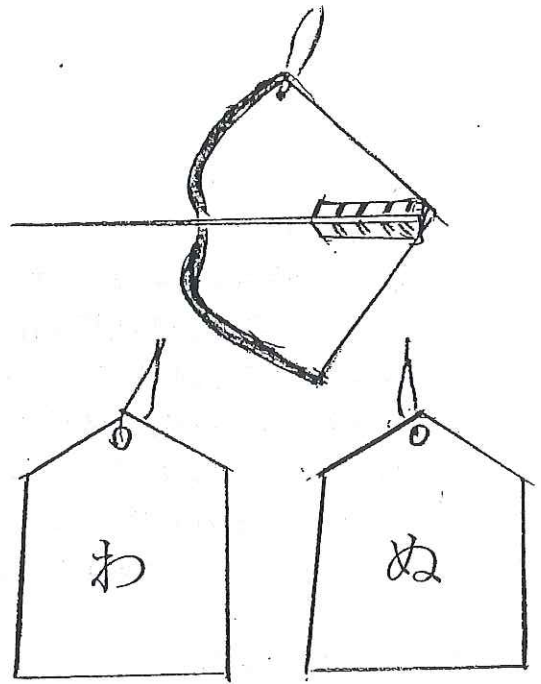


## 言葉は面白い

江戸時代の風呂屋の看板と石榴（ざくろ）

風呂屋の看板は、弓に矢を付けた絵があり、湯入（ゆいる）が弓射る洒落ですね

板に平仮名の「わ」を書いて「わ板」沸いたで営業中、板に「ぬ」を書けば「ぬ板」で抜いた、湯を抜く意味から閉店の看板でした。



湯に入ると脱衣所から洗い場、湯槽に入る入り口は湯が冷めぬ様に潜り戸があり、潜る処を、屈み（かがみ）ながら入ります。屈みは鏡に通じ、鏡を磨く石榴の実で磨く事から、石榴口（ざくろぐち）と呼ばれたのです。高度の洒落ではありませんか。

## 狸の置き物

蕎麦屋、鮎屋等の玄関先に狸の置き物を見かけますね。

「たぬき」は、他を抜きに出ると言う意味ですが、置いてある狸は雌ではありません。前を見れば分かります、雄ばかり。詰まり、貸し売りはしません。と言う意味であります。客が食事代貸してくれよと言われたら、貸さないよ。と言えは喧嘩になるかも知れません。玄関表に狸置いてあるでしょう。雄ですから、前金で願います。詰まり、貸し売りはしません。という意味であります。

間接的で面白いこれが日本語の楽しいところです。

## 豆腐のおからの話

おからは別名、卵の花とも呼ばれていますが、現代の若者に美味しいと思わないかもしれない。日本料理の素晴らしいのは心の栄養ですね。

我が家で明日娘が嫁いで行く前日母親がおから料理をだす。「私は朝から貴女に一生懸命おから料理を作りました。おからは別名、【きらず】と言います。きらずというのは、包丁で切らなくても料理出来るからこう呼ぶのです。この切らずを食べて、明日嫁いで行くが、親と子は生涯に切らずに何かの時は手を貸して下さいね。これが親の気持ちなのです。」こうして食べさせ、語る。物やお金は幾らあげての翌年には忘れるものですが、この話や食べた意味を私が嫁ぐ前日に母親がコンな物を作ってくれた。生涯親を思い出してくれる。これが幸福の贈り物ではないですか。

### 芝居と食べ物

歌舞伎に関連する弁当は、助六弁当でしょう。助六は市川家の十八蕃（おはこ）として脚本を十八蕃入れた箱を十八蕃（おはこ）と言われた中の一つ、助六は父の仇を討つ為に恋人「揚巻き」と共に活躍する人気歌舞伎である。この揚巻きの名から稲荷寿司と巻いた巻き寿司をいれた寿司である。幕の内弁当は芝居の幕内、詰まり幕の閉まっている間に頂く為、この名があり、相撲の場合に関取は大名が抱え、幕内と言われ力士は幕の中で相撲を取り、幕内で出した弁当が幕内弁当だ。当然、俵形の飯である

### 国技館の地下は焼き鳥店が

両国国技館の地下には焼き鶏の店があり、上が関取り、下は焼き鳥の洒落もある。鶏肉は二本足で四つ足にならない、負けないという意味である

### 慶事には南天の葉を

赤を祝いに出す時、南天の葉を添えますが、難を転じる意味から南天を添えるのです。

### 赤飯のお返しにマッチや以前は付け木

子供の入学祝等、近所に赤飯を重箱に詰め、お配りしたものでした。その時、空いた重箱に火を付ける木、「付け木」を入れたものでした、後、マッチを入れたものでした。付け木もマッチも硫黄が付いています。これが硫黄、祝うに通じ、重箱のお返しに硫黄の付いた、マッチを入れた物ですね

### 来客に胡桃（くるみ）を

お客さんを招いた時、くるみ和え、くるみ菓子を出し、来る身ということから、お待ちしております。と胡桃を出すことで、来客も気持ち良いものですね。

### 坊さんの陰語

坊さんは頭が良いですから。鮪で一杯（酒）なんていいません。鮪は「赤豆腐」酒を般若湯（はんにゃとう）と呼ぶのです。般若は知恵の神で、知恵を授かる湯なんでしょう。

鯉節は巻紙という。搔いたら【書いたら】減る

卵を御所車という。御所車には君(黄身)がある。まさに落語の何と掛けて何ととく、の謎々の世界ですね。



### 「山」の陰語

飲食店で、材料が売り切れ、店を閉めようという意味で「山にしよい」と言い、片付け始める。江戸では山もなければ畑もない。だから何もないという意味で、客に分からない様に片付けながら閉店にする意味である。現在でも使っています。

### 栗より旨い十三里

焼きイモの看板であるが、栗よりを、九里四里旨い、九里十四里を足すと十三里になる洒落だが、薩摩芋に産地に埼玉県川越がある。江戸城から離れて十三里あるとも言われ、川越で造られたキャッチフレーズである  
川越は薩摩芋の産地で、重い芋を船で江戸迄運んで行ったのだ  
江戸時代の看板を見ると十三屋の看板があるが、焼き芋屋である。因みに十三屋は櫛屋も九と四（くし）を足して十三屋である

### 餡ころ餅の別名

餡ころ餅は別名、春には牡丹餅（ぼたもち）秋は、おはぎともいうが、当たり鉢で潰して作る、きねの音がしない為に、隣に聞こえないうちに餅が出来上がってしまう為、「隣知らず」と呼ぶ。二つ目は「夜船」ともいう。知らない内に岸边に着く、知らぬ内に着く、という洒落である。もっとも高度に洒落は「北窓」と言うのだ、北側の窓を開けても月は見えません。ですから、月かないから、月が無い、突かない餅である

### するめ すり鉢

するめは、いかを開いて干したものだが、商売やさんは「する」を縁起が悪い事から、縁起良い、「当たりめ」従い、すり鉢も「当たり鉢」、すりこぎは、「当たり棒」と言うのだ

### 梨は有りの実

献立に梨と書けば無しに通じ、縁起良く「有りの実」と書く。結納の席に梨はいけません。有りの実と言うのです。

### 旅館の菓子

旅行に行きまして、旅館に入り、部屋に通される。テーブルの上に茶と菓子が置いてある。名物菓子を売りたい為に置いてあるのではなく、部屋を「お貸し」しますという意味から菓子を置いて有るのは面白いでしょう。

## 杉と檜（なら）

日光の二荒山神社（ふたふたらさん神社）には二〇〇年の歴史がある、杉と檜の大木が御神木として祀られ、杉（好き）檜（なら）一緒という意味で縁結びの神社である。

## 花梨（かりん）と檜（かし）

庭にかりんと檜を植え、金は借りん、檜（貸し）はある、と言う意味ですね

## えんじゅの木

縁起良い木で延寿に通じ喜ばれる

## 櫟（いちい）の木

いちいの木は一位に通じ縁起良い木とされる

## 将棋台の足

将棋盤の足は四本、この足の材質は昔からクチナシの木で造られている。武士が将棋を差している時、第三者が絶対口出ししてはいけないという意味からこの木を使い、将棋台裏側は差した駒が、良い音が出る様、すり鉢状に繰り抜いてある。ここに口出した者は切られ、その首を置く台とも言われているが、将棋の勝負は真剣そのものだ。いう話である

## 十三屋

江戸時代の店で、十三屋の看板が絵画に見られる。十三は、九と四を足した物で、櫛（九四）を販売する店だ。もう一つは焼き芋屋で、栗（九里）より（四里）旨い十三里。九里と四里を足して十三里という洒落で焼き芋屋の看板に現在でも使われ、江戸城から薩摩芋の産地、埼玉県のカ越まで十三里あるとも言われている。